

# 社会(中)部会

## I. 研究の概要

1. 研究主題 変化が激しい時代を乗り越え、自ら社会を創造する子どもの育成  
～対話を用いた主体的な学びと学習者が自ら課題を創り出す授業を通して～

### 2. 主題設定の理由

「令和の日本型学校教育」に掲げられている通り、【個別最適な学び】【協働的な学び】が2020年代を通じて実現すべき姿とされている。技術の進化により、ChatGPTのようなAI(人工知能)が登場し、Society5.0時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものが劇的に変わる状況であり、子どもたちの今は目まぐるしく変化している。

このような「変化の激しい時代」で生き抜いていくために、コンピューターができない0から1を創り上げることや、相手の感情に寄り添うことなどのスキルの向上を通して、仲間やAIとも協働する力が必要であると考ええる。また、「自ら社会を創造」するために、自らが課題を見つけ出す力を身に付けたり、解決するために仲間と協働しながら考えを創り上げていく力も必要であると考ええる。

主題が掲げる「自ら社会を創造する」とは、上記のような変化が激しい時代を乗り越えるために、「子どもたちが自信を持って自分の人生を主体的にきり拓き、よりよい社会を創り出していくこと」と定義づけ、そのために必要な「未来社会をきり拓く力」を確実に育成していくことを目指していくものとする。

主題が掲げる「自ら社会を創造する」とは、上記のような変化が激しい時代を乗り越えるために、「子どもたちが自信を持って自分の人生を主体的に切り拓き、よりよい社会を創り出していくこと」と定義付け、そのために必要な「未来社会を切り拓く力」を確実に育成していくことを目指していくものとする。なお、昨年度まで行っていた単元デザインや単元を貫く課題についても教科書などを参考にしながら生徒に意識させる

### 3. 研究仮説

変化が激しい時代がさらに加速していくことが考えられ、次々と出てくる社会的な課題に主体的に対応するために、「困難な課題に対応し、正解に近づくための方法を学び経験する」ことで「自ら社会を創造する子ども」を育成できると考える。

### 4. 研究の年次計画

【1～2年次】 対話を用いた主体的な学びと学習者が自ら課題を創り出す授業を通して

### 5. 研究方法

- (1) 市町村研究部会と連携を図り、推進委員を通して部会員に研究内容を周知して、個人単位または学校単位で課題に取り組む。そして、その成果を専門部会第二次研究協議会で交流する。
- (2) 研究内容を踏まえた授業について、公開授業担当市町村から出された授業者と共同研究者、本部会役員等で検討を重ね、専門部会第二次研究協議会で公開する。また、北・中・南の各ブロックで研究授業を公開し、研究協議を行う。
- (3) 研究員およびプロジェクト研究員(小委員会)が中心となって研究試案を作成し、夏休み前に先行授業を公開し、指導案をアップする

## Ⅱ. 実践の経過と成果

### 1. 実践研究の経過

4月14日(金) 中旬	専門部会第一次研究協議会、第1回役員研修会、第1回推進委員会 →今年の部会研究についての確認 市町村第一次研究協議会
5月16日(火)	専門部会役員研修会 →今年度の部会研究の進め方について
6月22日(火) 26日(月)	第1回事務局長研修会 第2回推進委員会、第2回役員研修会 →専門部会の活動について
7月19日(火) 7月20日(木)	プロジェクト研究員による提案授業 授業会場：千歳市立向陽台中学校（児玉教諭） 第1回 第2回推進委員研修会 第3回役員研修会 →専門部会の活動の進め方について 今年度の研究の見通しについての周知 各市町村の部会員への周知のお願い
8月1日(火)	実技理論研修 →「質問づくりを通じた課題設定について」 指導者 北広島市立東部中学校 佐藤泉英教諭
9月21日(木)	第3回推進委員会、第5回役員研修会 →公開授業指導案検討
10月13日(金)	専門部会第二次研究協議会 公開授業撮影 恵庭市立恵み野中学校 福田 晃教諭 (公民分野) 公開授業撮影 恵庭市立恵明中学校 羽澤 茜教諭 (歴史分野)
11月15日(水)	『石狩の教育』原稿提出(研究員)
1月中旬 1月下旬	第4回推進委員研修会 第6回役員研修会 →今年度の反省・総括 次年度の研究の方向性について 「石教研情報」原稿提出(副部長)
2月上旬 2月中旬 下旬	各市町村第三次研究協議会 →次年度研究内容の概要提示 第5回推進委員研修会 第7回役員研修会 「会計簿」「部会活動記録綴り」提出(事務局次長)

### 2. 研究を推進するためのプロジェクト試案と研究授業について

#### (1) 今年度の研究について

今年度は、新型コロナウイルス感染症が第五類に移行したため、以前のような第二次研究協議会を行うことができた。ICTを駆使した方法でも先生方の学びは深まったが、やはり直接みてことで、得られる学びは大きかったことが改めてわかった。様々な研修会や公開研究授業等、各市町村の推進委員の先生方にご協力をいただきながら、共同研究の歩みを進めることができた。

研究を進めるための参考に、研究員による試案をホームページに掲載し、夏休み前にプロジェクト研究員の授業を先行公開した。

授業公開については、三分野(地理・歴史・公民)公開の取組を進めるため、プロジェクト研究員の試案による授業を一つ、第二次研究協議会での二本の授業公開を行い三分野を網羅した研究となっている。

(2) 地理的分野公開授業交流

プロジェクト研究員：児玉 教諭（千歳市立向陽台中学校）

段階	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
導入 10分	・アラブ首長国連邦の人口ピラミッドの特徴をつかむ	・人口ピラミッドの特徴を確認後ドバイの発展の資料を提示する。	
展開 ① 10	課題：西アジアの国々が経済成長し続けるためにはどうしたらよいだろうか。  重要語句の確認 ・地図帳、教科書を使用し 西アジア：原油、産油国、OPEC 中央アジア：レアメタルを中心に確認する。	・鉱産資源の輸出から経済成長をした点をつかませる。	
展開 ② 20	資料から見られる西アジアの経済成長に関わる課題をつかみ、改善策を考える。  【個人作業】 ・数点の資料から自分で西アジアが経済成長し続けるための課題だと思ふものを見つける。 ・課題の解決策を考える。  【3～5名グループ活動】 ・資料から見つけた課題点と解決策を交流する。	【個人作業】 ・資料の提示 原油輸出の資料、地球温暖化、世界の紛争、石油生産量、原油輸出の流れ ・資料を選び、西アジアの経済成長に関わる課題を見つけ改善策を考えさせる。 ・経済成長に関わる点を意識させる。 ※課題を見つけれない生徒へは机間指導し助言  【3～5名グループ活動】 ・見つけた課題と解決策が関係しているか意識させながら交流させる。 ・解決策に対して質問をし合うようにしかける。 ※机間指導し経済成長し続けるポイントからずれない活動になるよう注意する。	
終末 10分	・数名発表 課題と解決策の関連を中心に全体で確認 アジア州では経済成長を中心に学習を進めてきたこと再度確認	・発表時は前に出てきて発表させる。 ・資料を黒板に写し、見つけた課題を説明させる。 ・ワークシートを提出させる。	ワークシート 思考判断表現



・成果

研究の提案内容として、「グループ活動を通じた対話」の工夫となった。単元を通して、各授業でアジアについての様々な知識を獲得させることで、本時では単元を貫いたまとめの学習となっていた。生徒自らが資料を選択することで、それぞれの課題を設定し、仲間と共に対話を通して課題を解決することがポイントとなった。学習者が自分の視点で、見方・考え方を働かせながら、ペア学習やグループ学習で知識を定着させながら生徒自身がまとめに向かって主体的に取り組む姿が見られた。

次年度以降も、役員の提案授業を継続させていく。

### 3. 専門部会第二次研究協議会での交流研究

#### (1) 交流内容 公開授業交流

3年生 公民的分野 私たちの暮らしと民主政治 - 「民主政治と日本の政治」 -

- ・授業者：福田 晃 教諭 (恵庭市立恵み野中学校)
- ・本時の目標：「各新聞社の見出しは、どうして違うのだろうか？」

#### ①本時の様子

段階	時間	学習活動	教師の指導・支援 ◎努力を要する生徒への支援	学習評価 ◇評価
導入	7分	1 マスメディアについて復習をする。	①新聞・テレビ・ラジオなど ②挙手による生徒指名を行う。	
		2 新聞の見出しについて共通点・相違点を確認する。(言葉・白抜き文字等)		
各新聞社の見出しは、どうして違うのだろうか				
展開①	30分	3 自分なりの仮説を立てる。(強調の差、伝えたいことが異なる)	③自分の仮説を立てさせる。 ⇒自分の中で課題を作り出す	
		4 グループ内で交流し、発表する。		
展開①	30分	5 A～Cの新聞記事とマジックが配布される。	⑤A～Cの新聞記事とマジックを配布する。	
		6 各新聞記事でどのような点で違いが見られるのかを考え、発表する。(記事の量、写真や図など)		



	7 グループ内で、各新聞記事のトップ記事の取り上げ方について考察する。(情報量・漁業者・中国・政府・安全)	⑦グループ内で、トップ記事の取り上げ方について考察させる。	
新聞記事を使って、メディアリテラシーについて学ぼう			
	8 A～Cの新聞記事についてグループで検討してレーダーチャートに示す。	⑧A～Cの新聞記事についてグループで検討してレーダーチャートに示させる。	評価①
	9 各グループで作成したレーダーチャートにより、トップ記事の取り上げ方に違いがあることに気付く。	⑨各グループで作成したレーダーチャートにより、トップ記事の取り上げ方に違いがあることに気づかせる。	評価②
	10 仮説について他の生徒との対話しながら検証する。	⑩対話(グループ活動による対話)による仮説の検証をさせる。	
展開②	11 記事内容を批判的に検証する視点について知る。 取り上げ方の違い (情報量・安全) 立場(漁業者・中国)	⑪記事内容を批判的に検証する視点について教える。 地方紙・全国紙の違い 記事内容の取り扱いの軽重 政府寄り・国民寄りの記事 読売新聞はセカンド記事	
メディアの情報を、適切に読み取ることは大切である。			
終末	12 レーダーチャートから、マトリクス図を作成する。	⑫レーダーチャートから、マトリクス図を作成させる。	
	13 今日の授業のまとめを書く。	対立軸Ⅰ(中国と安全) 対立軸Ⅱ(取り上げ方の軽重) ⑬今日の授業のまとめを書かせる。	

#### ② 分科会での協議内容

- ・資料をどのように提示するか、個人での思考の時間とグループでの思考の時間の配分について。
- ・思考ツールの使い方について。

#### ③ 成果と課題

- ・思考を視覚化するツールとしての「レーダーチャート」「マトリクス図」を活用し、対話をしていた点。
- ・生徒自身の課題設定、どのような情報を生徒に提示するかが課題。

## 交流内容 公開授業交流

### 2年生 歴史的分野 欧米の進出と日本の開国「江戸幕府の滅亡」

- ・授業者：羽澤 茜 教諭（恵庭市立恵明中学校）
- ・本時の目標：「江戸幕府が滅亡に向かった理由を考えよう」

段階	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
導入 10分	資料1・2を見る ・砲台に人が集まっている ・日本人が切りかかっている様子 ・大きな外国船がいる、日本より大きい	・尊王・開国・攘夷・佐幕の言葉の確認 資料1：下関事件（戦争） 資料2：生麦事件・薩英戦争をPPで提示をする。 →どんな様子であるか。 ★板書を行う（薩長同盟まで）	
展開 35分	江戸幕府が滅亡に向かった理由を考えよう  それぞれの行動は、どの考え方（立場）に近くなるか分類しよう  <個人2分> 選択肢の行動は、尊王派・開国派・攘夷派・佐幕派のどの考え方（立場）に分類できるか考える（マトリクス表）  開国派  尊王派  攘夷派  佐幕派  自分の考えを相手に話す・質問しながら、グループでの考えを記入する  それぞれの考え方（立場）で、日本を  それぞれの立場で、「日本」という国に対して、どんな思いを抱いているのかを考えていく  一交流・発表	選択肢 ①薩摩藩士がイギリス人を斬った（生麦事件） ②長州藩が近海を通った外国船を攻撃した（下関戦争） ③元水戸藩士が井伊直弼を暗殺（桜田門外の変）した ④井伊直弼が反幕府派を処刑（安政の大獄）した ⑤井伊直弼が日米修好通商条約を結んだ ⑥幕府は尊王攘夷運動を取り締まる人々を任命した（新撰組）  【グループで交流】 7分程度 考えを交流する →どう考えたかの理由を含め、話し合う。異なる場合には質問をする。 ★板書を行う ★自分と違う考えを色ペンで書く  どんな国にしていきたいか  【3～4人班】 3分程度 それぞれが「日本」と言う国にどのような思いを抱いていたかを考えさせる  一教員発表させ、板書  尊王派：天皇を中心に国づくりをし、議会を設けたい	研究 ペア対話活動 【評価】 思考判断  研究 グループ対話活動 【評価】 表現

### ①本時の様子



### ② 分科会での協議内容

- ・資料をどのように提示するか、個人での思考の時間とチームでの思考の時間の配分について。
- ・思考ツールの使い方について。

### ③ 成果と課題

- ・思考を視覚化するツールの項目についてどのようなものにするかでさまざまな場面で活用できる。
- ・生徒個人や、グループ学習の際に適切な時間配分はどのような時間かなどが課題。

## (2) 協議内容



### 討議の柱 I

公開授業の題材について、今後の授業に取り入れたり、役立てそうな事は何か？  
本日の授業以外の展開をするとしたらどのような展開があるか？

両授業ともに、多くの先生方の考えや意見を議論させることができた。「ICTの推進の中での実物の大切さ」や「思考ツールをどのように活用するか」など日常の授業で活かせる議論となった。「生徒にどのような力をつけさせるのが目標なのか」がぶれないようにしながら、先生方一人ひとりの視点でさまざまな授業案が生み出されていた。

数年振りの集合形式での授業を行い、やはりライブ感のある授業の方が色々な考えが生まれる事がわかった。

### 討議の柱 II

日常の実践において、悩みや疑問などについて交流を図る。

前年度の部会員の意見を検討し、小グループでのレポート交流に加え、日常の実践等での悩みや各校での実践の工夫などを交流する形態で実施した。

今年度の研究の重点である「対話を用いた主体的な学びと学習者が自ら課題を創り出す授業を通して」について、討議の柱について対話を行った。生徒の資質・能力を高めることについて、活発な交流がなされた。

次年度も部会員の先生方の意見を取り入れて同様の形態で実施し、レポートの提出率や参加率を一層高め、有意義な時間となるようにしたい。

## Ⅲ. 教育課程の研究

### 1. 研究の経過

今年度は、主に次の点について重点的に取り組んだ。

- (1) 学習者同士での探究的な活動のために、必要な授業者の視点や仕掛けの工夫
- (2) 年間指導計画と学力テストなどの調整
- (3) 研究の重点に迫るための先行授業の設定

## 2. 研究の成果・課題

今年度は「対話」「生徒の課題設定」のうち特に「対話」に力を入れた。昨年から引き続き評価について部会全員で情報共有を行ったり、共通認識をもつことに力を入れた。今年度は特に評価についての情報収集、それを生かし指導についての分析を行った。評価の3観点については、事前に部会員にアンケート調査を行って、実態調査をして分析し、情報公開することで部会員の情報交流ができた。次年度も今年度の研究、情報交流を行ってきた評価について様々な新たな課題が予想されるが、有益な情報を部会員に提供できるよう努めたい。

## IV. 実技・理論研修会

### 1. 研修会の内容

北広島市立東部中学校の佐藤泉英教諭による、「質問づくり」と題して、令和5年8月1日（火）に研修を行った。

質問の焦点（キーワード）を用いることで、そこから自然発生的に生まれてくる「質問（課題）」について、自分や周りが評価せずに、発散することで様々な課題設定が可能になる。学習者一人ではなく、複数人で行うことで、いろんな視点の「質問（課題）」を生み出す事ができるので、1単位時間の課題に設定したり、単元を貫く課題を設定する事が可能となる。

質問づくりの基本 ①たくさん出す ②評価しないで言う ③その場で答えたりしない ④そのまま書く

以上のきまりを用いてオープン・クエスチョン（OQ）やクローズド・クエスチョン（CQ）に分けたり、OQをCQにしたり、その逆を行ったりすることでさまざまな課題を設定する力を養う事ができる。

## V. 部会研究の成果と課題

### 1. 成果

研究主題「変化が激しい時代を乗り越え、自ら社会を創造する子どもの育成」を設定し、研究を進めている。成果として、部会員が「対話」についてより意識をして、学習者同士での関わりの重要性を理解し、先生方の方法を用いて工夫し実践を積み重ねられた。また、ただ単に「話をする対話」から「思考ツールを用いる対話」など自分の考えを視覚的に表現する方法の広がりも見られた。ICTツールの活用と合わせながら、さまざまな思考ツールの共有ができた。

2月には各市町村の第三次研究協議会で部会員にレポート提出をしていただき、管内での実践の情報交流を行なっていきたい。充実した実践やレポートが揃っていることに期待したい。

### 2. 課題 校正

今年度から研究の重点が変わり、「対話」と「課題」について深めている。成果にあるように「対話」については一定の成果を上げる事ができたが、「課題」については生徒自身に主体的に設定させる方法に大きな課題を感じた。

今後は、目まぐるしく変化していく社会の中で、AIやコンピュータと共存し「人の強みや良さ」を生かすために「質問や対話」をする力が必要になってくると思われる。生徒が主役になり、生徒が創り上げる授業を目指す必要がある。

次年度は「対話」についても引き続き研究に取り組みながら「課題」について部会員の先生方とともにそれぞれの実践や工夫などを共有していきたい。部会員全員で研究に取り組みながら、力強く自分の意思をもち、考え、堂々と未来へ向けて歩いていく生徒の育成のために、部会が一丸となって今後も取り組んでいきたい。

（文責 佐藤 泉英）